

## 顧客向けメールサンプル

こんにちは 新日太郎様

本日11月20日は、主に関東圏で、恵比寿(えびす)神を祀り、五穀豊穣や商売繁盛を祈願する「恵比寿講」が行われる日です。近畿圏では福の神としての恵比寿信仰が根強く残っており、1月の10日戎(えびす)として親しまれています。

秋の恵比寿講は、井戸や川に鮎を放ち、家庭では鯛や鮭のご馳走で恵比寿神を祭る風習があつたようですが、近年では主に境内およびその周りに縁日がたち、また商業者団体が安売り・商業祭というイベントとして恵比寿講を行う地域もあるようです。

家内安全、商売繁盛、身体健康で、残り少なくなってきた今年を乗り切り、めでたい新年を迎えたいものですね。

\*^\*.....\*^\*

▼△　　日本の若者にとっての三刃(サンパ)とは　　△▼  
\*^\*.....\*^\*

日本を代表する中華街といえば横浜中華街と神戸・元町の中華街の二つがあげられます。

いずれの中華街も休日となれば本場の味を求めて多くの観光客でにぎわっています。

メイン通りは観光客目当ての店も多く、値段もそれなりですが、少し中心から離れた所まで足を伸ばすと、手頃な値段で本格的な中華料理に出合うこともできます。

世界で最も多い料理店は中華料理店だと言われています。

事実、中華料理店のない国は世界に存在しないそうです。(確かめたわけではありませんので、念のため)

どうしてこれほど、世界中に中華料理店が多いのでしょうか。

中国人が多いというのがその第一の理由ですが、他にも理由はあります。華僑として世界中で活動する彼らは見ず知らずの土地で生活する術にも長けています。

華僑の人たちの間には三刃(サンパ)という言葉があります。

三つの刃、即ち、「包丁=中華料理」、「ハサミ=服の仕立て屋」、「カミソリ=散髪屋」のどれかの技術を身に着ければ、どこの土地へ行ってだれを相

手にしようが食べていくことができるというものです。

確かに言葉が十分に通用しなくとも、これらの商売を行うことはできます。

腕さえあればすぐにでも商売を行うことができます。

彼らは経験的にそれを悟っていたのです。

その結果、世界中に中華料理が広まったという話です。

(残りの二つの刃、中国人経営の散髪屋と服屋が世界中に広がっているか  
と言われるといさか疑問ではありますが…)

要は手に技術があればどのような状況でも生きていけるということです。

就職氷河期といわれる昨今、高校生の進路として医学・薬学・看護系の大  
学に人気が集まっています。

高齢化の進むわが国、医療費が今後も増加していくことは明白です。

医療業界は安定的な成長が期待できる数少ない有望な業界です。

日本の若者にとってのまさに三刃の一つと言えるのではないでしょうか。

\*^\*.....\*^\*

▼△　え?! 個室でないと入院できない?!　△▼

\*^\*.....\*^\*

「一日の室料が2万1000円。確かに設備は素晴らしい、ここが病院とは思  
えませんが、この値段を何日も出すほどの経済的余裕はありません。もっと  
安い部屋を希望しているんですが、今のところ空きを待っている状況です」

あるがん患者さんのご家族の嘆きです。

地方在住のこの患者さん、今春、難治性のがんの診断を受けました。

人づて、ネット、書籍などで様々な治療法を追い求めるなかで、大阪のある  
病院がそのがんに関し、良好な治療実績を上げていることを知ります。

まさに「わらをもすがる思い」で大阪に出てきて受診、その後の入院・加療を  
希望しました。

雑誌やネットで「良い病院」として紹介される機会の多い病院だけに、地元  
大阪だけでなく、全国各地から患者さんが多数訪れます。

入院を希望する患者さんも多く、病室は常に満床に近い状況です。

一部の人を除き、室料のかからない大部屋を希望する患者さんが大半です  
が、入院するにはベッドの空きを待たなければならないのが実情です。

病状の進行の遅い慢性疾患ならば空きを待つというのも選択肢の一つで  
すが、進行の早い疾病となるとそうもいきません。

「個室なら入院が可能ですが、どうしますか」

病院からそう告げられた患者さんも少なくありません。冒頭の方もそんな事情から高額の個室を選択せざるをえなかつたのです。

かつて進められた医療費抑制政策により、病院経営はどこも厳しい状況にあります。

増収はどの病院にとっても喫緊の課題であり、高額の利用料が徴収できる差額ベッドは増収策のトップ項目になっています。

その結果、大部屋は常に満室で待ち期間が必要、個室なら入れる、という状況が多くの病院で見られるようになったのです。

一部の難治性のがんのなかには、進行が著しく早いものも存在します。

ベッドが空くまでの数週間を待つことは命に関わるほど深刻な問題です。

経済的負担に耐えながら個室を選ぶ患者さんは珍しくはありません。

がんに対する医療技術は日々進歩しており、治療成績も向上しています。

しかし、「医療格差」という言葉もあるように全ての医療機関で高い医療が提供されるわけではありません。

また、それぞれの病院で「このがんなら〇〇病院」という専門化も進んでいて、そのため一部の治療成績の良い病院に全国から患者さんが集中するという現象が起こっています。

入院しても医療費は高額療養費のおかげで大した負担にならないという声もありますが、必ずしもすべての疾病でそれが通用するとは限りません。

特にがんになれば、差額ベッドの例をとっても分かるようになおさらです。

経済的な備えは怠らないようにしておきたいものです。

アドレスのご変更、メールマガジンの解除は下記アドレスで行えます。

[http://www.isr.jp/mailmag/\\*\\*\\*\\*\\*\\*\\*\\*](http://www.isr.jp/mailmag/********)

---

株式会社SHINNICH LIFE

代表取締役 日本 一郎

〒143-0023 東京都大田区山王 2-1-8-421

TEL:03-6303-7813,FAX:03-6303-7813

<http://www.hokenforum.com/>

---

※実際のメールマガジンは PDF ではなく、e メール（テキスト形式）でお送りします。

また、携帯向けには読みやすさを考慮し、1テーマのみの配信としています。